

地理的アクセスの視点で考える高等教育機会

寺田 悠希（高知大学 学び創造センター 特任講師）

講師略歴

専門は高等教育論・都市計画。放送大学学園事務職員として企画・計画・学生募集広報・学生調査等の業務を経験した後、2024年6月より現職。現在は、FDやIRの業務に従事している。近著に「教育現象を対象とした研究における地理情報システムの利用可能性」（2025年、教育社会学研究第116集）「大学地域配置をめぐる地域住民の現状認識と将来意向」（2026年、高等教育研究第29集 ※印刷中）などがある。

プログラム概要

2023年9月、中央教育審議会に「急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方について」が諮問され、2025年2月には「我が国の『知の総和』向上の未来像～高等教育システムの再構築～（答申）」として取りまとめられました。この答申では、高等教育へのアクセス確保が重要な論点とされ、地理的観点からのアクセスにも注目が集まっています。また、地域高等教育機会確保特例制度においても、地域における高等教育の状況や教育機会確保の必要性を踏まえた取組が求められています。

本プログラムでは、大学等の高等教育機関地域配置政策の流れを概観したうえで、大学・短大配置と人口分布を手がかりに、教育機会の地域差を考えます。講義に加え、参加者自身の地域や所属機関に引きつけて考える問いかけを交えながら進めていきます。

準備物・事前課題

なし

主な受講対象者

1. 高等教育政策、大学・短大の地域配置、地域における（高等）教育機会に関心のある方
2. 大学・短大等への地理的アクセスや（高等）教育機会の将来像をともに考える機会として、現役学生の方の参加も歓迎します！

到達目標

1. 高等教育への地理的アクセスが政策課題となっている背景を説明できる。
2. 大学・短大への地理的アクセスの変化や地域差を読み取ることができる。
3. 自身の地域や所属機関に引きつけて、高等教育機会を考えるための問いを挙げることができる。